

古典を読もう（伝統的な言語文化）

年	組	番	氏名

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

左の文章は、およそ千年ほど前に「清少納言」という人が書いた①『枕草子』という作品の一部です。『枕草子』は、清少納言が、様々な体験を通して、考えたり、感じたりしたことを、自由に思うままに書きつづった文章です。「現代語訳」と照らし合わせて、読み味わってみましょう。

『枕草子』

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも②をかし。雨など降るも②をかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いと②をかし。日入りはてて、風の音、虫の音など はた いふべきにあらず。

冬は④つとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりてわろし。

【第一段】

「現代語訳」

春は明け方がいい。だんだんと白くなって行く山ぎわが少し明るくなって、紫がかつた雲が細くたなびいているのがおもむきがある。

③夏は□がいい。月のながめのよいころはいうまでもない、月が出ていないやみの夜もやはり蛍がたくさんとび交っているのがおもむきがある。また、ただ一つ二つなど、ほのかに光って飛んでいくのもおもむきがある。雨などが降る夜もおもむきがある。

秋は夕暮れがいい。夕日がさして山のはしがたいそう近くなったところに、烏がねぐらに行こうと、三つ四つ、二つ三つなど急いで飛んでいく様子までしみじみとした感じがする。まして雁などが列になって飛んでいるのが、大変小さく見えるのはとてもおもむきがある。日がすっかりしずんでしまつて風の音や虫の音が聞こえてくるのもいいようのないほどおもむきがある。

冬は早朝がいい。雪が降り積もつた早朝はいうまでもない。霜がたいそう白い朝も、またそうでなくてもたいそう寒い朝に、火などを急いでおこして炭を持って運ぶのもたいそう冬の早朝らしい。昼になって寒さがゆるんでいくと、火桶の火も白い灰が多くなつてきてよくない。

ー ①～④の——線部について、次の問いに答えましょう。

① 次の文章は、『枕草子』についての説明です。ア、イに入る言葉を書きましよう。

『枕草子』は、清少納言という人が、人生の様々な体験を通して、（ア）たり、（イ）たりしたことを、自由に思うままに書いた文章である。

ア…

--

イ…

--

② 昔の言葉づかいは、現代とはちがったつかい方のものがあります。

「をかし」とは、心に感じたときにつかう言葉で、現代語訳では「□□□□がある」としてあります。あてはまる言葉を書きましよう。

答え

がある。

③ 現代語訳の続きを書きたいと思います。「夏は」に続く□に入る言葉を一文字で書きましよう。

答え

夏は

--

がいい。

④ 「つとめて」とは一日のうちどのような時間帯であると考えられますか。現代語訳をもとに答えましよう。

答え

二次の文章は、『枕草子』を読んだ山田さんの感想です。これを読んで、次の問に答えましよう。

平安時代の人が書いた文章を、何度も声に出して読んでみると、いくつか感じたことがあります。

まずは言葉のリズムのおもしろさです。声に出すと音が心地よく、すんなりと自分の中に入ってきて、すぐにおぼえてしまいました。

つぎに、昔の人のものの見方や感じ方が今にも通じるということです。「秋は夕暮れがいい」というのは、今のぼくが読んでもなるほどと思うところです。

最後に、言葉の表記の仕方や音は、今とちがう点があるということです。「やうやう」と書いて「ようよう」と読むのは今とちがう点です。

① 山田さんはまずはじめに何を感じたと述べていますか。十二文字で書きぬきましよう。

答え

② 何が今にも通じると述べていますか。十三文字で書きぬきましよう。

答え

【解答】古典を読もう（伝統的な言語文化）

一 次の①～④の問いに答えましょう。

① 次の文章は、『枕草子』についての説明です。ア、イに入る言葉を書きましよう。

『枕草子』は、清少納言という人が、人生の様々な体験を通して、（ア）たり、（イ）たりしたことを、自由に思うままに書いた文章である。

ア：

考え

イ：

感じ

② 昔の言葉づかいは、現代とはちがったつかい方があります。

「をかし」とは、心に感じたときにつかう言葉で、現代語訳では「□□□□がある」としてきます。あてはまる言葉を書きましよう。

答え

お

も

む

き

がある。

③ 現代語訳の続きを書きたいと思います。「夏は」に続く□に入る言葉を一文字で書きましよう。

答え

夏は

夜

がいい。

④ 「つとめて」とは一日のうちでどのような時間帯であると考えられますか。現代語訳をもとに答えましよう。

答え

早

朝

二次の文章は、『枕草子』を読んだ山田さんの感想です。これを読んで、次の問に答えましよう。

平安時代の人が書いた文章を、何度も声に出して読んでみると、いくつか感じたことがありました。

まずは言葉のリズムのおもしろさです。声に出すと音が心地よく、すんなりと自分の中に入ってきて、すぐにおぼえてしまいました。

つぎに、昔の人のものの見方や感じ方が今にも通じるということです。「秋は夕暮れがいい」というのは、今のぼくが読んでもなるほどと思うところです。

最後に、言葉の表記の仕方や音は、今とちがう点があるということです。「やうやう」と書いて「ようよう」と読むのは今とちがう点です。

① 山田さんはまずはじめに何を感じたと述べていますか。十二文字で書きぬきましよう。

答え

言

葉

の

リ

ズ

ム

の

お

も

し

ろ

さ

② 何が今にも通じると述べていますか。十三文字で書きぬきましよう。

答え

昔

の

人

の

も

の

の

見

方

や

感

じ

方